

言語文化 単元指導計画

日時	令和〇年〇月〇日 (〇)	場所	1年〇組 教室
クラス	1年〇組 (〇〇人)	授業者	〇〇 〇〇
科目名	言語文化	単元名	戦乱下の人間像
使用教材	平家物語「木曾の最期」	使用教科書	『新編言語文化』 数研出版
教材観	<p>本教材は、中世の軍記物語である「平家物語」の中盤、木曾義仲が討ち取られる場面を描いたものである。戦いの中であって最期の時を迎えようとしている登場人物の行動や心情が生き生きと伝わってくる場面であり、生徒にとって興味をもちやすい教材である。</p> <p>琵琶法師が語り継いできたという文化的背景や、史実との違いなどにも着目させ、単なる歴史叙述を超えた、文学作品としての価値に気づかせたい。また、「面白い作品を創造したい」という感情が、時代を超えた普遍性をもっていることに気づかせ、古典作品に対する苦手意識の改善につながることを期待できる教材である。</p>		
生徒観	<p>古典に対する苦手意識が強く、特に文法や単語などの基礎事項の定着に課題がある。また、「古典は物語として面白くない」という生徒も多く、いかに興味関心を引くかが課題である。授業の中で、古典文学に関する知識を確認したところ、基礎的な知識が定着していない様子がうかがえた。</p> <p>本単元では、音読した際のリズムの心地よさにも触れながら、木曾義仲と今井兼平がどのように描写されているかに着目し、語り手の視点や表現の特色について理解を深めながら、内容を正しく解釈し、古典教材への抵抗感を減らすことを目指す。</p>		
指導観	<p>本単元では、音読をする際に琵琶法師の語りであることを意識し、音便が多用された躍動的な文体や、和漢混交文のリズムに親しませたい。武士として、主君の名誉を重んじようとする今井兼平と、乳兄弟として共に死のうとする木曾義仲のそれぞれの人間性や心情を読み取らせたい。また、「主従二騎」しかない状況での会話を、誰が聞き、語り継げるのかという視点をもたせた上で、諸本との読み比べを通し、描写の虚構性、語り手による意図的な脚色や推量を的確に読み取らせたい。</p>		

1 単元の目標

- (1) 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解することができる。
[知識及び技能] (2)イ
- (2) 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。
[思考力, 判断力, 表現力等] B(1)エ
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。
「学びに向かう力, 人間性等」

2 単元の言語活動

「木曾の最期」の書き直しを行った上で、教科書本文と「延慶本」とを読み比べし、解釈の違いや語り手による意図的な表現について交流する。

(関連: [思考力, 判断力, 表現力等] B (2) エ)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している ((2) イ)	② 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 (B(1) エ)	① 古典作品の成立過程における虚構性を意識しながら、物語を書き直して再構築する活動に粘り強く取り組む中で、自らの学習を調整しようとしている。

4 指導と評価の計画 (全6時間)

次	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
第1次 (1時間)	○単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○「平家物語」の概要を知る。 ○木曾義仲について知識を深める。	[知識・技能] ① [思考・判断・表現] ①	「記述の点検」 「行動の観察」
第2次 (3時間)	○本文を読解し、内容を理解する。 ○本文の語句や文法事項について確認する。 ○登場人物の人物像や心情を理解する。	[知識・技能] ①	「記述の確認」
第3次 (2時間)	○『主従二騎のみ』の会話を誰が聞けるのか考え、語り手による物語の虚構性に気づく。 ○特定の立場の語り手として、「木曾の最期」を再構築する。 ○「延慶本」の記述と比較し、語り手の意図によって記述が変わり得ることに気づく。(本時1/2)	[思考・判断・表現] ① [主体的に学習に取り組む態度] ①	「記述の分析」 「行動の観察」

【単元の流れ】

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○平家物語についての概要を知る。 ○本文を音読し、重要語句などの確認を行う。	・教科書のリード文の他、「祇園精舎」や既習事項を有効に活用する。 ・琵琶法師の語りであることに留意させ、和漢混交文のリズムを意識して音読させる。	[思考・判断・表現] ① 「記述の点検」ワークシート ・記載内容を点検する。 [知識・技能] ① 「行動の観察」音読 ・正確に滞りなく読めているか観察する。
2	○木曾義仲が今井兼平と共に討ち死にしようとする場面までを読解する。	・二人が幼いころから共に育った乳兄弟であることに留意させる。 ・「都にていかにもなるべかりつる」の一文に着目させ、武士としての矜持よりも友情を重視していることに気づかせる。 ・読み取りを行い、二人の会話から人物像と心情を適切に理解させる。	[知識・技能] ① 「記述の確認」ノート ・記載内容を確認する。

3	○今井兼平の説得を受け、木曾義仲が自害を決心するまでの場面を読解する。	・当時の武士の理想とされる姿、理想の死を理解させる。 ・前時の学習範囲と本時の学習範囲で、今井兼平の言葉が真逆になっていることに着目させ、友情関係よりも主従関係を重視していることに気づかせる。	[知識・技能] ① 「記述の確認」ノート ・記載内容を確認する。
4	○今井兼平が自害するまでの場面を読解する。 ○登場人物に対してどのような印象を受けたか共有する。	・当時の武士の理想とされる姿、理想の死を理解させる。 ・木曾義仲、今井兼平に対しての好意的な印象を共有し、次の授業へ繋げる。	[知識・技能] ① 「記述の確認」ノート ・記載内容を確認する。
5	○この物語の内容がどこまで真実か考察する。 ○特定の語り手の立場から「平家物語」を再構築する。 ○再構築した物語を共有し、評価する。	・「誰がこの会話を聞いていたのか？」という問いから、語り手の存在と物語の虚構性に気づかせる。 ・再構築された物語は、語り手の立場を反映し、その意図に沿って効果的な表現になっているか着目させる。	[思考・判断・表現] ① 「記述の分析」ワークシート ・記載内容を分析する。 [主体的に学習に取り組む態度] ① 「記述の分析」ワークシート ・記載内容を分析する。 「行動の観察」 ・活動に取り組む様子を観察する。
6	○「延慶本」の一部を読み、木曾義仲に対する記述がどう異なるか確認する。 ○自分の考えをワークシートにまとめる。	・同じ「平家物語」でも、約80種類の諸本が有り、登場人物の描写が異なることを確認させる。 ・「延慶本」の語り手は、頼朝を高く評価していることを確認させる。	[思考・判断・表現] ① 「記述の分析」ワークシート ・記載内容を分析する。 「行動の観察」 ・交流の様子を観察する。

≪本授業における評価の実際≫

5 観点別学習状況の評価の進め方

共通必修科目「言語文化」の「内容」の〔思考力、判断力、表現力等〕「B読むこと」に関する指導については、「内容の取扱い」(1)イに「40～45単位時間程度を配当するもの」と示されている。このことを踏まえ、本単元では、「B読むこと」に関する資質・能力を目標として掲げ、単元のまとまりの中でその育成を重点的に図る指導と評価の計画を示している。

(1) [知識・技能] の評価

[知識・技能]①の「古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解することができる」状況を、「和漢混交文のリズムを意識しつつ、おおむね滞りなく読んでいる」姿（「おおむね満足できる」状況(B)）と捉え、主に音読の様子を確認し評価する。

滞りなく音読ができていない状況を C と捉え、個別に声をかけて、和漢混交文特有のリズムがあることを示し、それを味わうように促す。

(2) [思考・判断・表現] の評価

[思考・判断・表現]①の「作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める

ことができる」状況を、「物語の虚構性に気づいた上で、語り手の立場を意識して物語を再構築している」姿（「おおむね満足できる状況」(B)）と捉え、ワークシートの記述を分析し評価する。

ワークシートを自分の言葉で書くことができない状況を C と捉え、個別に声をかけたり、ペアを作って話し合わせたりするなどして書くよう促す。

(3) [主体的に学習に取り組む態度] の評価

[主体的に学習に取り組む態度]①の「古典作品の成立過程における虚構性を意識しながら、物語を書き直して再構築する活動に粘り強く取り組む中で、自らの学習を調整しようとしている」状況を、「物語の再構築に粘り強く取り組み、自らの学習を調整しようとしている」姿（「おおむね満足できる」状況(B)）と捉え、振り返りシートの記述、自己評価を分析し評価する。

本単元を基にした気づきや学びがまとめられない状況を C と捉え、振り返りシートの評価項目を参考に、単元を通して気づきや学びがどこかにないか探るよう促す。

6 学習指導案(5時間目/全6時間)

本時の目標：ア．木曾義仲と今井兼平の最期の場面が脚色されたものであることを理解した上で、特定の語り手の立場に立ち、その意図に沿って該当場面を再構築することができる。

[思考力, 判断力, 表現力等] B(1)ア

言語活動：本単元の教材で学んだ内容を基に、該当場面の会話や展開を書き直す。

本時の展開：

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入 5分	□前時までの学習内容を確認する。	・教科書とワークシートを見直し、本文の内容と構成を確認する。 ・二人の人物像や心情を確認する。	・ペアで確認させる。 ・松尾芭蕉や芥川龍之介などの人々を惹き付ける作品であることを紹介する。
展開① 5分	□語り手の存在と、物語の虚構性を確認する。	・『主従二騎』しかない場面の会話を、誰も聞けるはずがないことを確認する。 ・巴御前についても、そもそも実在しなかったのではないかとする論もあることを確認する。	・「平家物語」全体が、史実とは異なる可能性を多く含んでいることに気づかせる。
展開② 30分	◎本文を書き直すアイデアを練る。 ◎生成 AI を利用し、「木曾の最期」の脚本を書き換える。	・自分が脚本家となり、特定の人物を主人公として美化する視点で物語を書き直す。 ア・木曾義仲を主人公として美化する イ・今井兼平を主人公として美化する ウ・石田為久を主人公として美化する エ・巴御前を主人公として美化する オ・オリジナルキャラクターを主人公にして美化する。 ・最終的な勝敗に影響が出ない範囲であれば、どのような虚構を混ぜても良いことを確認する。	【本時の目標アに対する評価規準と評価方法】 規準：木曾義仲と今井兼平の最期の場面が脚色されたものであることを理解した上で、特定の語り手の立場に立ち、特定の人物を美化する意図に沿うように該当場面を書き直すことができている。 方法：「記述の分析」(ワークシート、机間指導) [状況 C に対する手立て] ・例に沿って書くよう助言する。 ・ペアで意見を交換するように声をかける。 ・時間が余ればグループで交流させる。
まとめ 5分	□本時の内容をまとめる。	・次回、グループ交流をすることを確認する。 ・今回書いた作品を「〇〇高校本」とし、約 80 種類ある諸本の一つに加えることを確認する。	・未完成の生徒に対して、次回で完成させるという見通しをもって取り組むよう注意を促す。